

OASIS の風

-hear your heart-

ナーシングホーム OASIS 志賀公園

R3年 6 月号



入居者様の声

**H・T 様 : 40 代男性 : ALS : ナーシングホーム OASIS 志賀公園入居中
miyasuku-SW 使用中 使用歴 : 1 か月**

「カチッ、カチッ」H様の居室より音がする。

H様は1年半前の入居当時、少し動く上肢にてベッドリモコン、NC、PC(マウス)等を操作し、お食事も自己にて召し上がられていた。そんなH様も徐々にALSの症状が進み、4月に気管切開の手術を行ない、24時間呼吸器を使用する事となった。退院してからは「miyasuku」を練習中である。冒頭の音は、まだ動かせる左手首にてフットスイッチを使い文字を打つ音だった。PCやゲームがお好きだったためか慣れるのが早く、文字を打つのもとても早いのである。

そんなH様に、今回コミュニケーションについて色々聞いてみた。

まずは気管切開の決断理由だ。決め手を聞いてみると

「マスクは上手くつかえず日毎にいき苦しくなったから」と答えてくださった。

入院前はマスク型人工呼吸器(NPPV)をされていた。

では、実際に気切をし、人工呼吸器を装着してみた感想を聞くと、

「楽になったけど唾液を飲み込むのがしにくい気がする会話がもどかしい」と返ってきた。唾液が増え、今は持続吸引を行っている。

会話がもどかしいと答えていたが声を失って不便な事を聞くと、

「ちょっとした会話やとっさの言いたいことが伝わらない」とのこと。

PCにて「枕の位置」と打ち込みをしても、上下左右の微調整は口パクにて行われる。そのちょっとした会話も伝わり辛く、繰り返し尋ねる事もある。

最後にMiyasukuの感想と今後何をしたいか聞いてみた。

すると「テレビ、会話、ネット、介護士さんを呼べて便利 ゲームができないのがざんねん」と入力された。ゲーム好きのH様。次なる課題はゲームである。(文章:ケアコール志賀 堀江)



スタッフの声

Sさん : 訪問看護師 : ナースコール志賀 : 1年4か月

OASIS 志賀公園に入職し、働き始めて1年が経ちました。看護師としての経験が少ないうえ、難病や呼吸器管理を必要とする入居者様が多く最初は分からないことだらけでした。また看護をしていくうえで、疾患によって自分の意思をうまく言葉では伝えられない方のコミュニケーション方法に戸惑うこともありました。

当施設へ入職してから福祉用具の導入や身体の一部を使う等の様々なコミュニケーション方法があることを知りました。日頃の関わりや観察等から多職種が連携し、入居者にあったコミュニケーション方法を考え導入していることがわかりました。私も入居者様との関わりを通して、残存機能を活かしてその人らしく安心して過ごしていただけるよう努めてまいります。

トピックス

ポータブル スプリング バランサー

スプリングの張力を利用することで、わずかな力でも自身の上肢を動かすことができる装具です。

今回お話を伺ったH様もこちらの装具を使用して、食事を召し上がられていました。

スタッフも体験しましたが、とても軽く感じました。

